

委員提出資料

宮本 みち子 委員 1 頁

矢ヶ崎 紀子 委員 2 頁

山形県総合政策審議会 紙面での発言

放送大学・千葉大学名誉教授
宮本 みち子

1. 三世代同居世帯が多い山形県では、不安定な仕事に悩む若者やひきこもりの状態にある若者が家族のなかに隠されてしまい、若者の問題がみえにくくなりがちです。若者が独立できるためには、青年期から成人期への移行の時期を本人や親任せにせず社会的に支援することが必要だと思います。相談や支援の体制を充実することや関係機関の連携体制を整えることが必要です。
「地方の時代」を実現するには若者たちが確実な生活基盤を築き、社会関係の広さや厚みをもった主体として成長できる環境が必要です。
2. 若者が山形作りに参画し、意見を表明し活動に参加することを意識的に推進することが必要です。そのためには学校での民主主義教育を進め、積極的に発言したり行動できる資質を養成することが必要です。社会に出た若者には、行政施策の立案や地域づくりにおける意見表明を制度化し、「社会の主人公」としての自覚と実力を磨く豊かな機会を若者のために整えることが必要です。また、若者に対して、一度は広い世界を見聞する機会を積極的に与え広い視野を培えることはその後山形県に定着する場合にも大きな力となります。山形の地元で定住しつつ、外部の人的ネットワークや情報を豊富にもった若者たちを育成することが必要だと思います。
3. 三世代同居率が高い山形県では、一定の所得を確保し不安定雇用や病気や老齢その他のリスクに対して三世代が同居することで防止する機能を果たしていると思われます。このようなセーフティネット機能を確保しつつ、メンバーの幸福度や満足度をあげるためには、男女平等、親子世代間の意思疎通や相互の尊重など、総じて平等と人権が守られることが重要な条件となります。家の事情というだけで三世代同居を強いることは理想の姿ではないと思います。
4. 進学のために県外流出する若者が増加する一方で、進学のための高等教育費の負担が重くのしかかっています。一方、地方大学の経営は厳しい状態にあり、県内大学は一層縮小しかねない状態です。この問題を解決する道として県内大学に限らない大学間連携を推進し、人材・施設の共用、単位互換（放送大学のような通信制を含むことが重要）を推進することが必要です。大学間連携は県内に限定せず、たとえば首都圏の大学との連携を図り、たとえば4年間のうち半期から1年間は首都圏大学で学ぶというような、地域を越えた学びが可能になれば、県内大学に進学する者の充実感も増すのではないのでしょうか。

第4次山形県総合発展計画（仮称）への意見

東京女子大学 矢ヶ崎紀子

1. 計画の基本的な方向性について

- ・ 人口減少下において山形県が持続的に発展していくためには、以下の 3 つの要素が必要と思います。
 - ① 県民が健康で働き続けられること。人材不足が供給制約を引き起こさないよう、また、価格競争に陥らないよう、付加価値の高い財・サービスの産出ができること
 - ② ①を支えるために、国内外との交流が促進され、その交流を通じて、県内に多様な情報や知見、人脈等が国内外からもたらされ、県民や産業に良い刺激が与えられること
 - ③ ②の交流の中から、県外から山形県を支えてくれる応援団（関係人口）が増大していくこと
- ・ 交流人口を拡大させるためには、企業間取引の活性化、留学等教育機会の充実、観光客の増加等の多様なエンジンを持っておく必要があります。この交流を促進させるエンジンを強化するための方策も必要になると思います。
- ・ 観光は、交流人口増の入り口としても重要な役割を果たすものであり、経済活性化以外にも、観光の可能性をどのように活用するか視点をもっとあるべきではないかと思います。なお、観光客が交流人口や関係人口にシフトするためには、一過性あるいは低価格を評価する観光客ではなく、山形県の魅力を理解してくれる良質の観光客を誘客し住民との接点を増やす必要があります、このことが可能となるよう、県内の観光関連事業者のレベルアップが求められます。
- ・ 人口減少問題を「克服」するとありますが、これは避けられず、いかに影響を低減させるかが基本方向ですから、県民に過度な期待を与えるような表現は再検討した方が良くと思います。

2. 政策展開における論点と主な検討項目について

○ 国内外からの観光・交流の拡大による地域経済の活性化について

- ・ これまでの施策との違いがあまりないように思います。山形県の観光の現状と将来動向に関する分析をしっかりと行い、戦略的な政策が必要になります。人口減少問題を前提とすると、観光資源に恵まれている山形県においては、人数ではなく、一人当たりの消費単価を高め、人数が減少しても消費額が増加することを目標とするべきであると思います。なお、山形県の観光振興のためには、豊富な魅力を組み合わせてターゲット毎に訴求するものとしていく編集力と、ターゲットに理解される表現で発信していくプレゼンテーション力をもっと磨く必要があると思います。
- ・ 観光や輸出拡大などはつながっているテーマであり、お互いに相乗効果をもたらしていくべきものですが、各パートが独立してしまっている印象があります。例えば、県内製品の輸出拡大のためには、その有望市場である国・地域から山形県へ旅行者が多く来ることが必要です。施策のポートフォリオ、相乗効果の観点からの点検を行うことが望ましいと思います。

以上